



左：給餌（左が雄親） 右：親子3羽の啼き交わり（左が幼鳥）
写真はこの番いではなく別の場所の親子です。感電死は北海道電力の協力で殆どなくなりました。

シマフクロウの事故死中で増えつつあるのが交通事故です。こういった事故は当事者からの報告は殆どなく道路脇にいたとか死んでいたという第三者からの連絡です。死体でも発見されればまだいいですが、他の野生動物が運んで行ったりするので、実際はもっと多いと想像します。

今回（20年度）助成金でこの事故を少しでも減らせるように、その原因の明らかになっているところで行いました。実際は5年前から始めていることです。幼鳥は巣立ち後、親鳥について移動を開始しますが、その移動先に国道が通り事故に遭遇する可能性が高いのです。この地に生息する番いの繁殖成功率はあまりよくなくて、その少ない雛のうち私がこの作業を始めるまでは、近隣の国道で2羽の幼鳥が犠牲になっています。

巣から国道まで600m以上あります。巣立った幼鳥が徐々に移動すれば約1ヵ月半後には国道まで辿りつきます。なぜ国道までやってくるのかはハンティング場所が関係し、どうしても国道を横断しなければならないのです。国道わきには電柱や高木があり、それを止まり木にしています。親鳥と一緒に止まるのですが、親鳥は幼鳥をおいて、道路を越えハンティングに出かけます。幼鳥もついていけ

ばよいのですが、国道を越えることが出来ません。それは飛行がまだおぼつかないからです。従ってそこで親鳥の帰りを待ちます。交通量も少なくなった頃、幼鳥は道路に降りて落ちている紙屑等で遊びだします。これは一種のハンティングの練習でいつまでも道路上にいます。道路には他にいろんなものがあり、ネズミやカエルも出現します。それで道路（空間）の面白さを覚えてしまい、飛行できるようになっても道路脇に長時間滞在するようになります。これは亜成鳥になっても、また分散しても同様です。

これを少しでも変えるため、幼鳥が巣立ちを行なったら、その近くに生きた魚を置き、親鳥や幼鳥がそれを食べたり、そこで遊んだりさせて、充分飛行できるようになるまで行きます。それは移動を一時的に食い止めることです。そして充分飛行できるようになると移動を開始して道路脇までやってきています。すると幼鳥は親鳥と一緒に道路を越えていきます。実際これを始めてからは3羽が巣立

ちし、すべて分散まで無事に過ごしています。その後は追跡不可能になる為、生死は分かりませんが、せめて親元を離れるまでは、無事故でいてほしく毎年行っています。この作業は巣立ちから2ヵ月近くはほぼ毎日行わないとすぐに移動を開始します。その為一日でもやらないと大きく場所が変わってしまいます。野生動物に餌を与えることは良くないことですが、他に方法が見つからず困惑しているところでした。

この原稿を書いている3月、親鳥はすでに抱卵に入っており、亜成鳥となった幼鳥も元気に過ごしています。また自動撮影装置を道路脇に設置しその動向を見守ったけれど、危険な行動はなかったです。道路や鉄道は事故の多発場所でも道路に降りること以外にも横断飛行や表面飛行などがあります。またガードレールにもよく止まります。事故が減ることを祈っています。



事務局便り

●今回は、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、シマフクロウ保護活動支援金贈呈式・記念講演会等の開催に代えて、受贈者の三動物園から、日頃のシマフクロウ展示・飼育・繁殖の状況等についてご寄稿いただきました。次回以降、他の受贈者の方からもご報告をいただく予定です。

●賛助会員・寄付を募集しています

当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆様の賛助会員ご入会とご寄付を募集しています。

当会のホームページから手続きができるようになっておりますので、ぜひご覧ください。

また当会は「認定NPO法人」になりましたので、当会に対する寄付金・賛助会費は税制上の優遇措置を受けることができます。（詳しくは当会ホームページのお知らせをご参照ください）

【認定NPO法人北海道シマフクロウの会 事務局】（担当：米谷・久保木）

〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階（※北海道二十世紀総合研究所内） TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683

URL：https://hokkaido-shimafukurou.org/ E-mail：info@hokkaido-shimafukurou.org

北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌

第28号





釧路市動物園と動物園の取り組み

釧路市動物園 園長補佐 藤本 智

日本の動物園におけるシマフクロウの飼育記録は東京都恩賜上野動物園の記録が最も古く、1882（明治15）年の開園前、1875（明治8）年に寄贈された記録が最初になります。そして、1912（大正元）年までに9羽の記録があります。1954（昭和29）年から数園で展示飼育が再開されましたが、単羽飼育や性別不明のため残念ながら繁殖に至りませんでした。

釧路市動物園は1975（昭和50）年に開園し、市内鶴ヶ岱公園で保護收容されていたシマフクロウ5羽を引継ぎ、飼育を開始しました。性別不明だった個体の性別を判定、つがい形成に成功し1982（昭和57）年に初めて産卵に成功しました。残念ながら、この卵は孵化しませんでした。

社団法人日本動物園水族館協会（当時）は飼育下個体群の維持のため1988（昭和63）年に第一回種保存委員会を開催し、シマフクロウを血統登録して管理を始めました。1993（平成5）年にはオス4羽メス2羽を飼育する釧路市動物園に、飼育しているすべての個体（東京都恩賜上野動物園のメス1羽と鹿児島市

平川動物公園のオス1羽）を繁殖のために移動させて積極的な飼育下繁殖を開始しました。1994（平成6）年に初めて孵化に成功しましたが、巣立ち前にヒナは死亡しました。翌1995（平成7）年、同じつがいから生まれた1羽が初めて巣立ちし繁殖に成功しました。2020（令和2）年12月31日までに22回28卵が孵化しました。自然孵化が20回26卵（内托卵5卵）、人工孵化育雛が2回2卵です。孵化したヒナの内巣立った個体は19羽です。その内1羽を環境省へ移管し、リハビリテーション実施後1999（平成11）年に放鳥しました。飼育下繁殖個体が初めて野外に放たれたのです。1998（平成10）年以降、主に放鳥できない個体15羽を環境省から譲り受け飼育下繁殖に供しています。2011（平成23）年から旭川市旭山動物園と札幌市円山動物園に飼育個体を移動させ分散飼育を開始しました。そして、円山動物園は2014（平成26）年、旭山動物園は2016（平成28）年からつがい飼育を開始しています。その結果、2018（平成30）年に旭山動物園で繁殖に成功し2羽が生育しました。2019（平成31）



2020.6.5 巣立ち後4日目のヒナ

年には秋田市大森山動物園で飼育を開始し北海道以外での飼育を26年ぶりに再開しました。2021（令和3）年3月現在、秋田市大森山動物園に♀1、札幌市円山動物園に♂1♀1、旭川市旭山動物園に♂2♀2、釧路市動物園に♂7♀9？2を飼育しています。飼育下繁殖は2世代目でさらなる累代繁殖と別系統の繁殖を積み重ねていかなければなりません。そして、飼育個体数の確保と遺伝子の多様性を維持するために飼育園を増やし、シマフクロウの普及啓発に努めていく予定です。



寄り添う2羽。雌は抱卵中。

ました。2羽のヒナが生まれてから雄は昼間でも池で魚を捕って巣に運ぶ姿が観察されるようになり、ヒナが巣から初めて顔を出す姿、巣立ちして大きくなって

円山動物園のシマフクロウの飼育と繁殖に向けた取組について

円山動物園飼育展示課 猛禽類担当

菊池 晏那



当園では、オスのクック（11歳）とメスのレイン（推定11歳）を釧路市動物園から借り受けてペアで飼育しています。レインは野生傷病鳥として保護された個体ですが、保護時に左羽を骨折した後遺症で飛翔困難であるため、巣箱に登りやすいようにスロープや階段を付けています。

普段の飼育については、2羽の状態に合わせて常に複数種の餌（ヒヨコ、マウス、ホッケ等）を用意して栄養バランスが偏らないように与えています。また、飼育下では爪やくちばしが伸び過ぎてしまうので、定期的に捕獲してくちばしと爪を削って整えています。それと同時に体重



魚を狙うクックとレイン

測定や足の裏が趾瘤症になっていないか等の健康チェックも行っています。

2020年の秋からは獣舎内に止まり木付きの体重計を設置し、捕獲をしなくても体重を計れるようにしました。2羽とも体重計をあまり警戒せずに乗ってくれたため、以前よりも頻繁に体重のモニタリングができるようになりました。

シマフクロウの繁殖に向けては、獣舎内に7台のカメラを設置して繁殖期の行動を記録しています。2019年には産卵が見られるようになったため、さらに巣箱内にカメラを増設して巣箱の中の様子を詳しく観察できるようにしています。また、獣舎内にある活魚給餌用の大きなプールでは、求愛給餌を促すため千歳水

族館や豊平川さけ科学館からお譲りいただいた活魚を与えるようにしています。写真は2羽で仲良く魚を狙っているところですが、2羽とも非常に狩りがうまく、10cmほどの小さなヒメマスも、50cmほどの大きなニジマスもしっかりと足でつかんでいます。シマフクロウがプールの端に止まり何時間も魚を目で追っている姿を見ていると、活魚の給餌はシマフクロウの繁殖行動促進のみならず、福祉の面から見ても良い影響を与えているように思います。今後は1年を通して安定して活魚を与えられるように活魚を長期間維持できる設備を整えたいと考えています。営巣環境等についても改善を図り繁殖を目指したいと思います。

シマフクロウ・エッセイ集『羽ばたけ！シマフクロウ』をご寄贈いただきました。

このたび、当会の横内理事長から、シマフクロウ・エッセイ集『羽ばたけ！シマフクロウ』1,000冊をご寄贈いただきました。このエッセイ集は、横内理事長が当会機関誌「北海道シマフクロウ通信」に長い間にわたって寄稿された「シマフクロウに会える場所（彫刻・装飾に見るシマフクロウ(1)～(7)）」（平成26年4月～平成28年1月）7稿と「シマフクロウ四方山話No.1～4、No.6～13」（平成28年4月～令和3年1月）12稿を収録したもので、この度自費出版されました。当会の正会員、賛助会員、ご寄付いただいた方々をはじめ、関係各所に配布させていただく予定ですので、ぜひご覧ください。



旭山のシマフクロウ

旭川市旭山動物園 主査 中瀬 泰広

現在、旭山動物園ではシマフクロウを4羽飼育しています。当園がシマフクロウの飼育を始めたのは2012年です。飼育技術の習得のため雌1羽からの始まりでした。その後、繁殖を試みるため2016年に雄（ロロ）と雌（モコ）のペア飼育を始めました。雌は保護個体のため右目が不自由で警戒心の強い個体であり、当園に来た当初は雄との関係もどうなるかと不安でしたが、秋を迎える頃には鳴き交わしも観察されるようになり、順応してくれて良かったとほっとしたのを覚えています。そして繁殖です。希少

種の場合、バックヤード等に隔離して行うこともありますが、当園では通常の展示場での繁殖を目指しました。なぜなら、シマフクロウは昔から地元で私たち人間と共存しながら命を紡いで生きていた生き物であること、この2羽が繁殖期を迎えるまでに夜の狩りも来園者の前で行うなど、飼育環境や来園者の存在にしっかりと順応していると考えられたからです。2017年、当園で初めての繁殖期、無精卵ではありましたが初めて産卵を確認できました。そしてその翌年、2018年春にとうとう旭山で初めての孵化に成功し

いく姿、巣立ちしてからの親との関係などを間近で観察することができたのは大きな喜びでした。その上、今は深い森の残る地域でしか行われていないシマフクロウの子育てする姿を来園者と共有できたことは、シマフクロウの将来にとってプラスの影響を与えられたことだと考えています。現在その時に生まれた子供達は立派な成鳥になり、バックヤードで元気にすごしています。

そして2021年、今年は再び繁殖に挑戦しました。ただ、雌は初列風切り羽が痛んでしまっておりうまく飛べない状況

になっているため、新たな巣箱を負担のない高さに設置しました。ペアの仲の問題はなく、鳴き交わしから、交尾、産卵、抱卵と順調に進みました。期待は高まりましたが、残念ながら産卵した2卵は最終的に破卵してしまい、今年の繁殖は失敗に終わりました。今年は園内の工事などがあり、例年と環境が違っていたことも失敗の原因の一つと考えられました。まだ2羽は繁殖適齢年年齢です。来年に向け、2羽の体調と環境を整え、来園者と再び子育てする彼らの姿を共有できるよう頑張ります。